

広がるつながる意味ネットワーク ——前置詞多義語の理解から発信型の学習へ

鎌倉 義士



『ジーニアス英和辞典 第5版』(G5)では、前置詞についてもすべての語義と用例の記述を徹底的に見直し、英語学やコーパスを基に、新たな言語事実も盛り込むことで有益な語法情報を充実させた。前置詞での最大の変更は、認知言語学の知見を取り入れ意味ネットワークを新たに導入したことである。G4においても語義展開図の名称で前置詞の特性である多数の意味を理解しやすいよう提示されていたが、G5ではその考えを更に進化させた。意味ネットワークの利点は、前置詞の基本義である位置・場所の意味から時を表す意味へ、さらに抽象的な意味への展開を明確に示せる点である。これにより、まず基本義をおさえ、中心的な語義から多数の語義がどのように展開していくのかを関連づけて前置詞の意味を把握することができる。

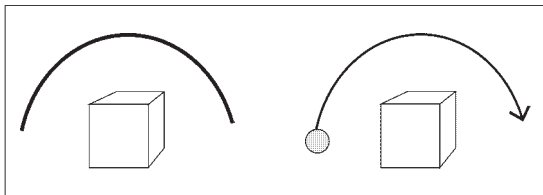
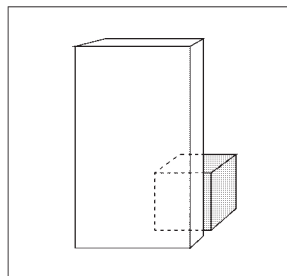
前置詞の基本義は簡易な図で示すことが可能である。G4から継続して前置詞イメージ図は、注意が向けられる対象物とその背景になるものの二者の関係を表し、必要なものには対象物の動きを記している。英語の文において、対象物とは前置詞(句)の前方に位置する名詞を指し、対して背景となるものは前置詞の後方に位置する名詞を示す。これら2つで構成された関係が、位置・場所の意味から抽象的な意味まで共通する基本的なイメージであることを図と意味ネットワークで示している。すなわち、辞書利用者がイメージ図を見て語の基本イメージを捉え、それがどのように発展していくかを意味ネットワークで確認できるようG5の主要な前置詞は構成されている。

◆イメージ図

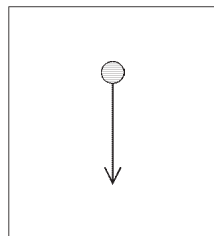
前置詞の基本義を理解するのにイメージ図は重要である。G5では細部により注意を払い、図を完成させた。

右図 behind では後ろに隠れるイメージを明確にするため、対象物のうち後方に位置する部分を点線で表示し改善した。

over に関しては2種類のイメージ図を用意した(下図)。over は認知言語学において長年研究されており、静的と動的な意味の両方が意味ネットワークの中心点として重要な役割を果たす。複数のイメージ図によって意味の広がりやの起点となる基本義を視覚的に提示した。



副詞の図にも改訂を加えた。下図は副詞 down のイメージ図である。down や up などは前置詞より副詞の用法が一般的である。その点を考慮し、down には対象物と動きのみで構成された副詞のイメージ図も加えて提示した。前置詞と副詞それぞれのイメージを併記し、学習者によりよく理解してもらう目的の変更である。



◆意味ネットワーク

前置詞の正確な意味の理解と的確な使用には、複数の意味にわたる全体像を知ることが不可欠である。例えば、次の2つの文で at と in は共に場所を指す前置詞である: Kent works at the market. / He lived in England. 私の研究と指導経験によると、日本人英語学習者は場所を指す前置詞に in を過剰使用する傾向がある。これは、at が一点を指すのに対し、in は空間を指すという基本イメージを把握していないことが原因である。

このように学習が難しい前置詞の意味の違いを理解し、正確に使い分ける手助けとなるよう意味ネットワークを考案した。その根幹となる考えは認知言語学の知見に基づく。具体的には、前置詞の意味が「位置(場所)→時→抽象の意味」へと発展することであり、全ての前置詞意味ネットワークにおいて原則的にこの提示順を徹底している。代表例として before のネットワークを見る。

■ before

【基本義: …より前に】

…の前に【位置】(前③)

- └…よりも前に【時】(前① a)
- └…よりも前に【順序】(前② a)
 - └…に優先して(前② b)
 - └…よりまさって(前② c)

before の中心になる意味として位置の意味である「…の前に」を最初に提示し、続いて時を示す「…よりも前に」、そして順序を意味する「…よりも前に」で意味ネットワークは構成されている。これは位置の意味から始まり、時間軸における位置として時の意味が続き、その後、抽象的な順序の意味へと発展することを示す意図による。

またG5の意味ネットワークでは、前置詞の意味の全体像をつかみやすいよう基本義から抽象的な意味への発展を明確にしたことに加え、周辺にある抽象的な意味から中心にある基本義を帰納的にも再確認できるよう構成した。例えば、at のネットワークの第1層にある「…に向かって」の意味は一点を目標とする「…をねらって」の意味へとつながる。同様に、数直線の一点を指す意味か

■ at

【基本義: 場としての一点】

…に, …で【地点・場所】(前①)

- └…に【時間】(前② a) — 【順序・回数】(前② b)
- └…に向かって【目標】(前③ a)
 - └…をねらって(前④ a)
 - └…を見て(前⑤ a)
- └…で【数直線の一点】(前⑥)
 - └【極限・限界】(前⑦)
 - └…の点で, …に関して(前⑧)
- └…をしている【存在】(前⑨)
 - └…で【所属】(前⑩)
 - └…で【状態】(前⑪ a)

ら限界点を示す at や「…の点で」へのつながりを知れば対象の一点を示す at を理解しやすくなると考え、ネットワーク上に配置した。

副詞の down, up にも新たに意味ネットワークを作成した。その理由は、前置詞と同様に位置の意味から抽象的な意味への発展が見られるからである。down の意味ネットワークにおいては、意味的な特性をふまえた特別な構成として基本義から想像し難い意味をネットワークの第1層に配置するようにした。「下に」の意味から「完全に」「抑えつけて」の意味は関連づけることが難しいと思われる。それらを代表的な語義として提示することで、その下層に位置する抽象的な意味の「すっかり」「しっかき」や「休止」「黙って」への意味拡張を明確にすることを試みた。

■ down

下へ【移動】(副① a)

- └下に【静止】(副① b)
 - └姿勢を低くして(副②)
 - └書き留めて(副③)
- └離れて, すぐそこに【場所】(副④)
- └下がって【量】(副⑤ a) — 減じて(副⑤ b)
- └完全に(副⑩)
 - └すっかり崩れ落ちて(副⑩ a)
 - └すっかりきれいに(副⑩ b)
 - └しっかりと固定して(副⑩ c)
- └抑えつけて(副⑪)
 - └休止の状態に(副⑫)
 - └黙った状態に(副⑬)

意味の理解は、「聞く・読む」の受信的技能のみで必要とされるものでなく、「話す・書く」の発信的技能でも欠かせない知識である。基本義から抽象的な意味への発展の道筋を意味ネットワークで視覚的に提供することが、G5を利用する英語学習者の積極的な英語での発信に貢献することを大いに期待する。(かまくら よしひと・愛知大学准教授)